
 卷 頭 言 

日本ライトハウス
理事長 岩橋明子

<第2回WBU総会に思う>

世界盲人連合（WBU）の第2回総会がスペインのマドリッドで9月18日から24日まで開催されたので参加した。日本からは代表5名、付添とオブザーバーを合わせると40名近い団体が出かけ、参加国中最大のグループであった。全体で600人位ということで世盲協の頃から通して最も大ぜいの集りであった。スペイン盲人協会（ONCE）は丁度設立50周年を迎えてその記念事業として今回の総会を招致したわけで、完成したばかりの教育リソース・センターで会議や機器展が開かれ、盲学生用のホステル300人分が代表の宿舎として提供された。ONCEは宝くじ運営権を認可されていて、1万3千人の会員がその販売に従事し年間売上げは230億円に上るといふ大きな財源を持っている。全国の盲学校・図書館・出版・訓練施設・ロービジョン事業・盲導犬育成などを一手に行なっているとのことであった。500人収容の講堂は同時通訳用ブース、大きなモニター画面のある控室、2階席もある立派な建物で広い敷地に教室、宿舎等と共にゆったりと配置されていた。開会式には国王夫妻や厚生大臣も出席され、有名な盲人ピアニストと室内楽団の音楽で始まるユニークな式次第であった。

今回の会議で目立ったのはアフリカ諸国の参加が非常に多くなったことと、出席者の年齢が若くなったことである。戦後各国で盲人施設や団体を整備し世盲協として国際的なつながりを築き上げた、いわば一世達が第一線を退き新しい世代へと引継がれる変遷期に来ていることが感じられた。参加者が不馴れなことと、執行部・事務局共に少々準備不十分な面もあって、事務会の部分に予定以上の時間がかかり「共同の努力による進歩」というテーマの世界会議の方では予定のペーパーも全部は発表されず討論の時間も全くとれなかったのが残念であった。機器展は39社から出品されていて、会議に出ていると中々見て廻る時間がなかったが、西独やノルウェーのインターポイント両面同時の高速

点字プリンター(1秒40字、1時間1200頁)には驚かされた。一方日本や香港等から出されていた日常生活用具には発展途上国の人々から即売を望む声が多く、対応に苦慮された様であった。コンピュータ時代を迎えて、先進工業国と発展途上国の盲人の状況の格差は益々大きくなっている。一方で拡大読書機や点字・音声による読み取り機が数々開発されてそのスピードや音質を競っている時、同じ地球の半分以上の盲人達は点字器や点字紙も充分に無いばかりか、その日の食事にも事欠いているわけで、こうした人達が手に職を持ち自活してゆけるように物心両面からの協力援助が強く望まれている。英国連邦盲人援護協会前会長・国際失明防止機関名誉会長のジョン・ウィルソン卿は、開会式の基調講演で次のように呼びかけた。「今ここにいる我々は真に世界の盲人を代表するものではない。世界の典型的な盲人とはアフリカの村で職もなく乞食同然の男達、フィリピンの街で生きるための売春で病気になっている盲女性、明日死ぬかも知れない子供達はたとえ生き延びてもまともな体には育たないだろう。現在4300万人という盲人で福祉の恩恵を受けているのは1%に過ぎない。しかも今世紀末には盲人数は倍増すると予想されている。今我々は既に知識と経験と技術を有しており、力を合わせることによってこうした悲惨な状態を改善することは可能である。各国代表は国際国内両面で1992年までの行動計画を立てるべきである。かつてスペインを船出した一人の人が新大陸を発見したが、今このマドリッド総会で新たな水平線を目指して航海が始まることを期待する。」

一施設・一団体は他国に援助するゆとりがないとよく言うが、大きな海外助成をしている欧米でもそれは同じである。彼らは政府や国内の協力で基金を作りそれで永続的な援助をしているのであって、本当に協力する気持があればこうした方向への努力がされねばならないが、経済大国といわれる日本で今後4～5年の間にどんな行動計画が立てられるのだろうか。世界総会は互いに直接話し合い良く知り合う場でなければならないと思う。援助をするにしても相手を知ることと相互の信頼がなければ成り立たない。一時的な思い付きで金品を贈ることは容易いが、受益者の立場から最も必要なものを最も適切な形で提供し、しかも将来その人々が自分の足で歩き始められるようにフォローアップを続けること、これは目立たず忍耐のいる仕事ではあるが不可欠の条件である。

自分の国の中でもまだ未解決の問題が多いのという思いはあろうが、それではいつまで経っても国際協力は生まれぬ。物質的に恵まれた国では想像もつかない生活をしている人々が、自分には関係ない別世界の人としか考えられないとすれば、国際社会には受け入れられないエゴイストと言われても仕方がないのではなからうか。

社会福祉法人 日本ライトハウス
職業・生活訓練センター 訓練生募集

あなたの周囲に眼の不自由な方で、日常生活動作や歩行あるいは読み書きの問題などで困っている方はおられませんか!!

日本ライトハウス職業・生活訓練センターでは有能なる社会人の創造をめざして一般社会で晴眼者と共に生活できるよう、社会適応訓練を実施いたしております。さらに、希望に応じて電話交換手・コンピュータープログラマー・機械工等の職業訓練も行なっています。

詳しくお知りになりたい方、及び相談されたい方のために毎月第2と第4土曜日の午前中に予約制で面接相談を行なっておりますので、お気軽に御連絡下さいませようお願いいたします。

なお、パンフレットを請求される方は70円切手を同封の上、下記へお申し込み下さい。

社会福祉法人 日本ライトハウス 〒538 大阪市鶴見区今津中2丁目4-37
職業・生活訓練センター TEL 06-961-5521